

ご挨拶

2020 年度は歴史に残る年度はじめとなりました。大学図書館にせよ公共図書館にせよ、図書館（で働く私たち）はいつも利用者のそばにいたいこと、つまり人びとが学びたいときにはいつでも利用できるよう開館し、サービスを提供していることこそがプライドでした。全面的な長期的な閉館を強いられる事態を想像したこともなかった関係者がほとんどだったと思います。本学の図書館は、開館日数も開館時間も日本の大学の中ではトップクラスです。入館者数も、二つの図書館を合わせたの数字になりますが、授業期に平均 5 千人／日、試験期には 9 千人／日と極めてよく使われてきました。図書館には実は卒業生等からの寄付もたくさん寄せられており、それを財源とするなどして、[学生希望図書制度](#)を設けたり、最新のデジタルサイネージを設置して各種のサービスの広報をしたりしています。これまで、そのようにみなさまから多くのご支援をいただき、ご理解をいただいて、立教大学の学修・教育を支える重要な一組織として立教大学図書館は発展を続けてきました。

それが今年は 3 月に入ってから、グループ学習のエリアの利用制限を少しずつはじめざるを得なくなり、館内に特別な緊張感が漂いはじめました。ただし、職員は全面閉館を余儀なくされる事態に備える作業に急ぎ着手しており、国内の大学図書館としては最も早く、3 月 31 日（火）に、[【2020 年度新学期 学生向け特設ページ「家でも使える図書館」特集】](#)を[図書館ホームページ](#)上にアップしました。4 月 8 日（水）から大学全体が閉鎖されることになって、図書館も閉館を余儀なくされました。直後に、オンラインで使うことのできるデータベースや電子書籍の契約を最大限、拡大しました。また、4 月には教員の授業準備のための特別利用や郵送貸出サービス等のサービスを開発し、5 月には教員のほかに大学院学生と卒業論文執筆中の学部学生たちの特別利用にも対応しました。しかし、大半の学生にとっては、来館して利用することはできないままで、そこが私たち教職員がずっと、なんとかならないかと苦しく思っていたところでした。

緊急事態宣言の解除を受けようやく、6 月 3 日（水）から、人数・サービスに制限はありますが開館を実現し、入館して資料を閲覧・貸出していただくことができるようになりました。学期末に向かってこれから利用が増えてくるとは思われますが、感染防止に最大限努めながら、学びの支援のために各種のサービスを改善し続け、できるかぎり充実させたいと思っています。今年度はこのようにとても特殊なスタートとなりましたが、インターネット上のヴァーチャルな立教大学図書館と、素晴らしい学習空間としての物理的な立教大学図書館と、在学中、思う存分、使っていただきたいと思います。また、サービスは、図書館内で職員によってのみ開発されるべきものではありません。学生からの要望も積極的にお寄せい



Twitter で館長としても
情報発信をしています。

ただきたいと思います。その交流の中から、さらに利用され、期待される立教大学図書館が実現してゆくものと思います。今後とも、ご指導とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 6 月 12 日

立教大学図書館長
学校・社会講座 教授
中村百合子